ISSN 1346-6992

日本植物分類学会ニュースレター

No. 15 Nov. 2004

目　　次

大会・講演会のご案内
日本植物分類学会第4回大会および2005年度総会のお知らせ.....2
2004年度日本植物分類学会講演会のご案内.....7
会長および評議員選挙
会長および評議員選挙の結果について.....8
評議員追加選出結果について.....8
学会からのお知らせ
次期庶務幹事・会計幹事・ニュースレター編集幹事について.....9
会費納入と自動振替利用のお願い.....10
お知らせ
教員の公募について.....11
2004年度野外研修会報告
2004年度野外研修会報告.....12
2004年度野外研修会の感想.....13
ミニ特集：植物同好会のこれから
植物誌編纂と植物同好会.....14
連絡員からときどき便り
植物と人便り・2・.....16
コケ便り・2・.....17
会員消息.....18

大会・講演会のご案内

日本植物分類学会第４回大会および2005年度総会のご案内

日本分類学会第４回大会準備委員会

日本植物分類学会第４回大会を以下のように開催いたします。

【会場】
高知県立牧野植物園（発表・総会）・ホテル日航高知旭ロイヤル（懇親会）
　※植物園の会場は椅子のみで机がありません。

【日程】
3月11日(金)【14:00-17:00】公開シンポジウム
　　【17:30-】　　評議員会

3月12日(土)　　【09:30-11:30】口頭発表
　　【12:30-13:30】総会
　　【13:30-14:20】記念講演
　　【14:20-17:00】ポスターセッション
　　【18:00-20:00】懇親会

3月13日(日)【09:00-12:00】口頭発表
　　【13:00-15:00頃】口頭発表

【発表の要領】
○一般講演　　時間は、講演12分、質疑応答3分の計15分です。液晶プロジェクター、35mmスライド映写機およびＯＨＰを用意いたします。発表・参加申込書に希望する発表媒体を記入してください。

・液晶プロジェクター：Windows XPとMacintosh（Mac OS X）のパソコンを用意いたします。Microsoft PowerPointでファイルを作成し、CD-RまたはCD-RWに焼き付けたものを、大会前の３月７日（月）までに大会準備委員会宛に郵送してください。送られたファイルは発表順にハードディスクにコピーし、動作確認をいたします。当日の操作は発表者自身で行っていただきます。卓上に用意したパソコンのマウスまたはカーソルキーで操作してください。Microsoft PowerPointは、Windows版ではver. 2000、Macintosh版ではv. Xを使用します。複雑なアニメーションなどは表示に時間がかかることがあるため、なるべく避けるようにご協力願います。当日のファイル受付はいたしません。念のためPowePointファイルをＯＨＰシートに出力してご持参ください。

・35mm スライド：スライド映写のための人員は配置しませんので、スライドホルダーへの装填および機器の操作は各自で手配して行っていただくことになります。

○ポスター　　ポスター発表用のパネルは横 90cm、縦 180cm を予定しています。左上角に講演番号を貼るための余白（10x10cm）を残してください。貼り付けには画鋲を用いて構いません。3 月 12 日の朝 8：30 から掲示できます。3 月 12 日午後の記念講演後にポスターセッションを行います。

【大会参加費（講演要旨代を含む)】
1 月 14 日までに振込の場合　　4,000 円（一般）2,000 円（学生）
1 月 15 日以降振込と当日申込の場合　5,000 円（一般）3,000 円（学生）
要旨集のみの別売価格 1,000 円

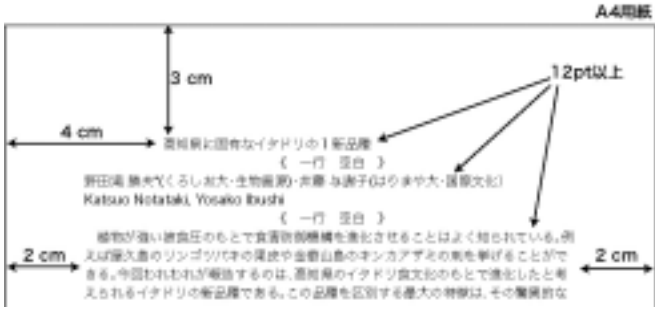
【懇親会】
3 月 12 日（土）午後 6 時 00 分より、ホテル日航高知旭ロイヤルで行います。

1 月 14 日までに振込の場合　　7,000 円（一般）6,000 円（学生）
1 月 15 日以降振込と当日申込の場合　8,000 円（一般）8,000 円（学生）

【昼食】
3 月 12 日（土）・13 日（日）とも以下の店を利用できます。
　レストランアルブル（植物園内、発表会場より徒歩 15 秒。ランチ 900 円より）
　竹崎商店（植物園南門前、徒歩 5 分。丼もの、麺類、おでんなど）
　五台山展望サービスセンター（竹林寺経由で徒歩 13 分。展望良、不定休。丼もの、麺類、カレー等）
ご希望の方には弁当（650 円、ペットボトル飲料付き）を用意します。発表・参加申込書に希望日を記入し、大会参加費・懇親会費とともに代金を振り込んでください（２月２８日まで)。

【発表・参加申込方法】
　できる限り電子メールにて発表・参加申込をしていただくようお願いします。別紙の「発表・参加申込書」にしたがって必要事項を入力し、タイトルを「学会申込」として gakkai@makino.or.jp あてに送信してください（添付書類にしないでください)。送信してから 3 日経っても（土日・祝日を除く）こちらから受信の返事がない場合は、タイトルを「学会申込再送信」とした上、同じメールを送信してください。電子メールを利用できない方は、別紙の「発表・参加申込書」に必要事項を記入の上、大会準備委員会あてに郵送またはファックスしてください。

【要旨】



本大会では指定の用紙を同封していません。作成例に従って、A4判の用紙１枚に文字サイズ12ポイント以上でタイプしてください。発表題目の左には発表番号を印刷するための余白が必要です。発表題目、発表者氏名と所属、発表者氏名（英語）、要旨の順に記入し、実際に発表する演者の右肩に「*」を入れてください。図や表を入れることは可能ですが、グレイスケール（ハーフトーン）原稿は印刷の際つぶれてしまうおそれがありますのでご注意ください。要旨はそのままB5サイズに縮小して印刷・製本いたします。原稿はプリントアウトしたものを大会準備委員会事務局あてに郵便でお送りください。電子メールの場合は、PDF(.pdf)・ワード書類(.doc)のいずれかの形式で添付書類とし、タイトルを「要旨原稿」としてgakkai@makino.or.jpあてに送信して下さい。ただし印刷の都合で体裁を変更する場合がありますのでご了承下さい。ファックスによる送付は受け付けません。

【申込の締め切り】

発表者のみ：

発表申込・大会参加費振込　１月14日必着（電子メール、郵便またはFAX）

発表要旨原稿提出　　１月28日必着（郵便または電子メール）

発表用PowerPointファイル３月７日必着（CD-RまたはCD-RWを郵送）

その他：

大会／懇親会申込・参加費振込　　２月28日必着

（１月15日以降は金額が異なります）

（３月１日以降は振り込まずに当日受付で精算して下さい）

弁当予約・振込　　２月28日必着

（当日受付はできません）

【要旨原稿の送付先】

〒781-8125 高知県高知市五台山4200-6

高知県立牧野植物園

日本植物分類学会第４回大会準備委員会

FAX: 088-882-8635

電子メール：gakkai@makino.or.jp

【参加費送金先】

口座名義：日本植物分類学会第４回大会準備委員会

郵便振替口座番号：01660-3-92740

※郵便局備え付けの用紙をご使用の場合、必ず振り込み金額の内訳を通信欄に記入して下さい。

【宿泊施設】
高知パレスホテル　〒780-0843 高知県高知市廿代町 1-18
http://www.kochipalace.co.jp/　Phone:088-825-0100　Fax:088-825-0120
ホテル No.1 高知　〒780-0843 高知県高知市廿代町 16-8
http://no1-kochi.cup.com/　Phone:088-873-3333　Fax:088-875-9999
セブンデイズホテルプラス　〒780-0822 高知県高知市はりまや町 2 丁目 13-6
http://www.7dayshotel.com/　Phone:088-884-7111　Fax:088-884-7188
コンフォートホテル高知駅前　〒780-0056 高知県高知市北本町 2-2-12
http://www.greens.co.jp/cfkochi/　Phone:088-883-1441　Fax:088-884-3692
高知ホテル　〒780-0053 高知県高知市駅前町 4-10
http://www.kochihotel.co.jp/　Phone:088-822-8008　Fax:088-822-8009
ホテル日航高知旭ロイヤル　〒780-0832 高知県高知市九反田 9-15
http://www.asask.co.jp/jalar/　Phone:088-885-5111　Fax:088-885-5115
高知新阪急ホテル　〒780-0870 高知市本町 4-2-5
http://hotel.kochi-newhankyu.co.jp/　Phone:088-873-1111　Fax:088-873-1145

※懇親会会場はホテル日航高知旭ロイヤルです。このホテルの場合、東京・福岡・宮崎・鹿児島からはパック料金がお得です。ホテル日航高知旭ロイヤルのパックに関しては以下の旅行会社にお問い合わせ下さい。
（株）JAL トラベル西日本　高知支店　Phone: 088-885-5270 Fax: 088-880-5366
大阪からのパック：（株）JTB 西日本コールセンター　Phone: 0570-050-489

【会場までのアクセス】
牧野植物園への公共交通機関はタクシーのみです。
○空港からバス利用
空港から土佐電鉄ドリームサービスバス高知駅行き（3-4 本／時）に乗り西高須通りで下車、タクシーで約 1500 円、徒歩約 50 分。
○はりまや橋からバス利用
土佐電鉄バス 15/16/25/28（合計で 2-3 本／時）で青柳橋東詰下車、タクシーで約 1000 円（25/28 は青柳橋西詰で下車すればすぐタクシー会社あり）、徒歩約 30 分。三ツ石下車なら徒歩約 20 分。土佐電鉄バス案内所：088-882-7721
○高知駅・桟橋・はりまや橋などから路面電車（土佐電鉄）利用
知寄町三丁目で下車、タクシーで約 1500 円、徒歩約 45 分。およそ 5 分間隔で運行。
○タクシー
高知空港から約 4000 円、高知駅から約 2000 円、はりまや橋から約 1700 円。

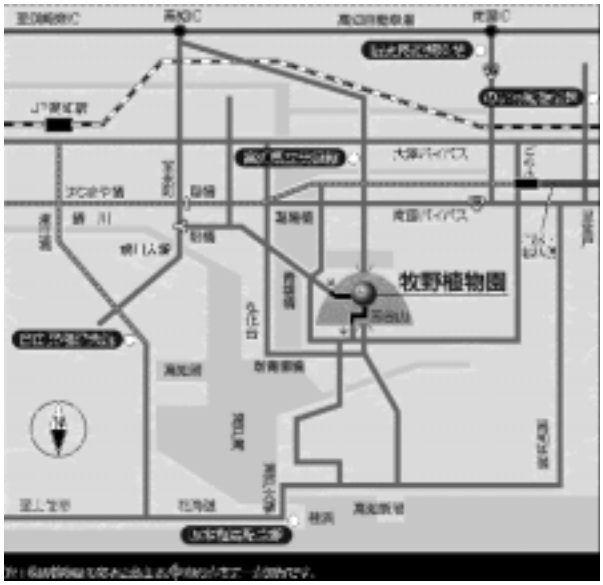
※バス停・電停から徒歩でお越しの方はあらかじめ地形図などをご確認下さい。
（参考）http://watchizu.gsi.go.jp/cgi-bin/bl.cgi?b=333255&l=1333442

【懇親会場までのアクセス】

　ポスターセッション終了後、タクシーに乗り合わせて移動して下さい。バス・路面電車利用の場合は菜園場町（さえんばちょう）下車南へ徒歩３分です。

【大会に関する問い合わせおよび連絡先】

〒781-8125 高知県高知市五台山 4200-6
高知県立牧野植物園
日本植物分類学会第４回大会準備委員会
　電話：088-882-2673（牧野植物園・標本室）
　ファックス：088-882-8635
　電子メール：gakkai@makino.or.jp
※なお、大会に関する案内や最新情報は以下のホームページでご覧になれます。
http://www.makino.or.jp/gakkai/



平成16(2004)年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

頌栄短大保育　福岡誠行

前号でも案内しましたが、講演会を下記のようにもちます。忘年会のつもりで、ぜひご参集ください。

日時：2004年12月23日（祝）10時～4時30分
場所：兵庫県立人と自然の博物館
三田市弥生が丘６丁目
TEL: 0795-59-2001、FAX: 0795-59-2007

アクセス：

・大阪から：福知山線三田(快速で35分)下車、神戸電鉄三田にてウッディタウン中央行に乗り換え、フラワータウン(10分)下車、徒歩3分。ただし博物館の建物が道路より下にあるので見えにくい。

・広島、岡山方面から：東海道本線尼崎より福知山線三田にて下車、神戸電鉄に乗り換え、フラワータウン下車。

・神戸市内から：神戸電鉄新開地より三田行にて横山で乗り換え、フラワータウン下車。

参加費：300円

プログラム：

10：00－11：00　清水孝浩：楽しいスゲの分類－ハリスゲの仲間

11：00－12：00　福田知子（京都大総合博物館）：日本と台湾のミヤマシキミ属の分類

12：00－13：00　昼食と雑談

13：00－14：00　秋山弘文（人と自然の博物館）：コケ植物の楽しみ

14：00－15：00　武田義明（神戸大発達科学部）：マツ林、30年間の変遷

15：00－16：30　田端英雄（岐阜県立森林文化アカデミー）：国際的に通用する日本の植生帯区分とは

会長および評議員選挙

会長および評議員選挙の結果について

選挙管理委員長　樋口正信

日本植物分類学会ニュースレターNo. 14で公示した日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせいたします。開票は2004年10月9日（土)、つくば市の国立科学博物館植物研究部棟会議室において、午後1時より本学会会員の遊川知久氏、細矢剛氏の立会いのもとで行いました。

【会長】

当選	邑田　仁	28
次点	戸部　博	15

（有効投票数　113票）

【評議員】

当選	秋山　弘之	23
	高橋　英樹	23
	今市　涼子	20
	村上　哲明	20
	藤井　伸二	18
	西田　佐知子	17
	綿野　泰行	17
	植田　邦彦	16
次点	門田　裕一	16

（有効投票数　113票）

植田邦彦氏と門田裕一氏は同票数でしたが、「役員等の選出についての細則」第４条の規定により抽選を行った結果、植田邦彦氏に決まりました。

評議員追加選出結果について

評議員　秋山弘之

選挙管理委員長の報告にありますように、次期評議員として８名（秋山弘之、今市涼子、植田邦彦、高橋英樹、村上哲明、西田佐知子、藤井伸二、綿野泰行：あいうえお順）が選挙によって選出されました。「役員等の選出についての細則」第４条の規定に基づき、私たち８名の合議により次の４名の方を評議員として追加選出しましたので報告します。

梶田忠（千葉大)、小菅桂子（神戸大)、高宮正之（熊本大)、出口博則（広島大）

学会からのお知らせ

次期の庶務幹事、会計幹事、ニュースレター編集幹事について

庶務幹事　遊川知久

次期の庶務幹事は福島大学の黒沢高秀さんが、会計幹事は国立科学博物館の田中法生さんが、ニュースレター編集幹事は九州大学の三島美佐子さんがお引き受け下さることになりました。これに伴い、2005年1月 1日から学会事務局連絡先と会計連絡先、ニュースレター原稿送付先が、下記のように変更になります。お間違えないようご注意下さい。

事務局・庶務幹事

〒960-1296　福島市金谷川1
福島大学共生システム理工学類内
日本植物分類学会
黒沢　高秀
電話：024-548-8201
ファクシミリ：024-548-3181
電子メール：kurosawa@educ.fukushima-u.ac.jp

会計幹事

〒305-0005　茨城県つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館筑波実験植物園
田中　法生
電話：029-853-8433
ファクシミリ：029-853-8998
e-mail: ntanaka@kahaku.go.jp

ニュースレター編集幹事

〒812-8581　福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学総合研究博物館
三島　美佐子
電話：092-642-4298
ファクシミリ：092-642-4299
e-mail: mishima@museum.kyuhsu-u.ac.jp

ホームページ、もうみましたか？

日本植物分類学会ではホームページを設けています。Flora of Japanの内容公開をはじめ、耳寄りな情報やリンクも充実しています。ぜひ一度ご覧下さい。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsps/

会費納入と自動振替利用のお願い

会計幹事　横山　潤

本学会の会費は前納制で、一般会員5,000円、学生会員3,000円、団体会員8,000円です。納入状況はニュースレター送付の際の宛名書きの右下に「納済会費：数字」という形で示してあります（自動振替制度をご利用の方は、数字の代わりに「自動振替」と記入されています)。この数字が2004未満の方は、以下の郵便振替口座にお早めに納入いただきますよう、よろしくお願い致します。

- 口座番号：00120－9－41247
- 名　　義：日本植物分類学会

ご承知のように会費納入に自動振替をご利用頂けるようになっております。会計事務削減のため、なるべく本制度をご利用頂きますよう、よろしくお願い致します。ご希望の方は、自動振替依頼書にご記入・ご捺印の上、随時会計幹事にお送り下さい（ただし2004年度の会費引き落とし手続きは終了しておりますので、ご利用は2005年度からになります)。依頼書をご希望の方は会計幹事までお問い合わせ下さい。

その他、会費納入に関するご質問、納入状況のご照会など、随時承っておりますので、お気軽にお知らせ下さい。会計幹事の連絡先は、ニュースレター巻末をご参照下さい。

現在110名以上の会員が1年分、さらにそのうちの60名以上の会員が2年分の会費をお納めいただいてません。上記納入年度をご確認の上、速やかな未納分の解消にご協力下さいますよう、お願いいたします。3年以上の長期滞納会員に対しましては、学会誌等の発送を停止させていただきますので、ご承知おき下さい。

編集後記

マダガスカルにご出張中の西田さんに代わりまして、今号の編集を務めさせていただきました。不慣れなもので、いつもより誌面がご覧になりにくいかもしれません。申し訳ありませんがご容赦下さい。

仙台は寒さの訪れが例年より早く、草木は早々に冬支度を初めております。冬の訪れが早い分、来年の春は高知で一足早い春を満喫できることを心待ちにしております。たくさんの方々が高知に足を運んで下さいますよう、お願い申し上げます。

〒980-8578　宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院生命科学研究科生態システム生命科学専攻
横山潤
Phone:/Fax: 022-217-6689
E-mail: jyokoyam@mail.tains.tohoku.ac.jp

お知らせ

教員の公募について

東京大学大学院理学系研究科付属植物園　邑田　仁

このたび東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻では，進化多様性生物学大講座の教授１名を下記の要領で公募いたします．つきましては，貴機関またはお知り合いの関係者にこの旨をご周知下さいますよう，お願い申し上げます．なお候補者の選考は，本学大学院理学系研究科の定める手続きにより行います。

公募人数　教授１名
任用条件　植物を対象とした進化多様性生物学または関連分野で優れた業績をあげている方で，進化多様性生物学の研究および教育に熱意のある方
所属　東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻進化多様性生物学大講座
応募形式　自薦または他薦
応募締切日　平成 17 年 1 月 28 日（金）（必着）
着任時期　平成 17 年 9 月 1 日（予定）
提出書類
1）履歴書
2）業績目録
3）主な原著論文 10 篇の別刷またはコピー（他に，もしあれば 1，2 篇の和文総説の別刷またはコピー）
4）これまでの研究概要（2000 字以内）
5）今後の研究計画および教育についての抱負（全体で 2000 字以内）
6）推薦状 1 通または応募者に関して意見を聞ける方 2 名の氏名・連絡先．7）推薦（他薦）の場合は，1）～4）および推薦理由書.

なお，自薦他薦の場合とも，特にお申し出のない限り書類は返却いたしません.

進化多様性生物学大講座教官（着任時の予定）
野中勝教授（免疫分子進化学研究室）田嶋文生教授（集団生物学研究室）
平野博之教授（進化遺伝学研究室）　野崎久義助教授（多様性起源学研究室）
真行寺千佳子助教授（進化細胞生物学研究室）　上島励講師（進化系統学研究室）
ホームページ http://www.biol.s.u-tokyo.ac.jp/ も合せてご参照下さい

書類提出先および問合せ先
封筒に「生物科学専攻教授公募」と朱書きの上，書留にて下記宛先に郵送して下さい.

〒 113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻　平野博之
電話（ファックス兼用）：03-5841-4056　e-mail: hyhirano@biol.s.u-tokyo.ac.jp

2004年度野外研修会報告

2004年度日本植物分類学会野外研修会報告

吉田國二(愛知県)　　須賀瑛文(岐阜県)

本年度は「愛知県、岐阜県のため池周囲と湿地の植物」(秋の周伊勢湾要素植物など)をテーマに開催された。(参加者　３０名)

9月18日(土)　午後２時、名鉄「犬山」駅東口に集合、犬山市池野の天然記念物「ヒトツバタゴ自生地」を経て、犬山市入鹿「入鹿池」へ。今年は干上がりが遅く、周囲の植物の生育も遅れていた。トネテンツキ、ヌマカゼクサなどを観察。ヌマカゼクサは＜斜上する基部から直立＞という図鑑などに見る標本からの記載とは異なって、＜稈は直立することはなく、殆ど地に接して四方に拡がる＞。「レイクサイド入鹿」宿泊。ため池の自然研究会会長　浜島繁隆氏による講演「東海地方のため池にみられる水草とその生態」。

9月19日(日)　今年はため池の干上がりが遅れたため、当初の予定を若干変更。可児市久々利大萱（ヒトツバタゴ)、岐阜県御嵩町松野（ハナノキ）を経て、土岐市常林寺「青少年活動センター」へ。乾燥地にはウンヌケが生育。大小の湿地やため池があって、イワショウブ、ヒナザサ、ホシクサ類などを観察。昼食後、恵那市武並町竹折（リョウノウアザミ、シラタマホシクサ)、恵那市三郷町野井（シラタマホシクサ)、夕立山(恵那郡山岡町；ﾓﾝｺﾞﾘﾅﾗ×ｺﾅﾗ、恵那市三郷町野井；ミズギク、ミカワシオガマなど）を観察し、恵那市根ノ上高原「恵那山荘」宿泊。岐阜大学　高橋弘氏による講演「岐阜県に特徴的な植物」。

9月20日(祝)　午前中、根ノ上高原の湿地（ミカワシオガマ、ミカワバイケイソウなど)、マルバノキなどを観察。昼食後、解散した。

参加者は観察地で広く見られたシデコブシ、ミヤマウメモドキ、ヘビノボラズ、サクラバハンノキ、クロミノニシゴリ、モンゴリナラなど特徴ある植物に堪能されたようである。

参加者：中村建爾(千葉県)、長谷川義人、中村僉雄(神奈川県)、西田佐知子、浜島繁隆、熊谷尚久、山越眞克、中村肇、吉田國二(愛知県)、田端英雄、高橋弘、市川廣利、奥田浩之、須賀瑛文(岐阜県)、山脇和也(三重県)、山本修平(和歌山県）、村田源、津軽俊介、澤田徹(京都府)、織田二郎(奈良県)、田村実、田中光彦(大阪府)、福岡誠行、黒崎史平、橋本光政、宇那木隆、布施静香(兵庫県)、脇本進(広島県)、久米修(香川県)、中山友子(福岡県)

2004年度野外研修会に参加して－ため池周辺と湿地の植物を堪能

兵庫県立人と自然の博物館　布施静香

ミカワシオガマ

今回の研修会では，愛知県・岐阜県の約10カ所をまわり，東海丘陵要素の植物をはじめ様々な植物を観察することができ，大変勉強になりました．入鹿池ではトネテンツキの白っぽい花柱がきれいに見られ，市ノ沢池ではヒナザサを見る事ができました．いくつかの湿地では，シラタマホシクサや，ホザキノミミカキグサといった植物が所狭しと生え，ミカワシオガマ，ミズギク，ウメバチソウ，シラヒゲソウが咲いていました．開けた湿地で飛び交うヒメアカネ，ミズゴケ類に覆われた山間の湿地ではヒメタイコウチといった昆虫を見つけることもできました．今年はミカワバイケイソウがよく咲いたようで，立派な果茎をいくつも見る事ができました．最近の研究によると，ミカワバイケイソウの分化の問題は，コバイケイソウだけでなく，本州中部のバイケイソウも含めて考える必要があるようです．花の時期に是非もう一度訪れたいものです．イワショウブは花～若い果実の時期で，真っ白な花被片と鮮やかな紅色の果実が秋の陽に輝 いていました．イワショウブが，分布の南縁近くであるにもかかわらず，標高の低いところに生える姿を見て，東海丘陵の植物の不思議の一端に触れたような気がしました．谷間の林ではハナノキやヒトツバタゴを，田の畔ではリョウノウアザミを観察し，大変充実した三日間でした．

最後に，色々とお気遣い下さった世話役の吉田國二先生・須賀瑛文先生・奥田浩之さん，ご講演いただいた浜島繁隆先生・高橋弘先生をはじめ，この研修会に関わられた多くの方々に感謝いたします．

リョウノウアザミを観察する参加者

ミニ特集：植物同好会のこれから

植物誌編纂と植物同好会

神奈川県立生命の星・地球博物館　勝山輝男

植物同好会のこれからというミニ特集であるが、この特集が組まれた背景にはアマチュア植物同好会の活動が停滞し、あるいは活発な活動は続いているが、若い世代が育っていないといった将来への不安があると思う。

しかし，前号で藤井氏が書かれているように，地方植物誌編纂を目的にした植物研究会や植物誌調査会は活発に活動し，大きな成果をあげている。アマチュアの活動はけっして不活発ではない。

神奈川県では1958年に作られた神奈川県植物誌を改訂しようと、横浜植物会から県立博物館に話が持ち込まれ、植物誌改訂の計画が作られた。県内を108個のメッシュに区分し、それぞれのメッシュで標本に基づく植物目録を作成し、県内の植物の分布図を作ることが企画された。108のメッシュのそれぞれで植物目録を作る調査は少数の専門家や有力なアマチュアだけではできない。そこで、広く県内の植物愛好家を結集するために、新聞で呼びかけて調査員を募った。その結果、約150名の調査員が集まり、1979年に神奈川県植物誌調査会が発足した。

植物誌調査会は植物誌調査のために作られた会なので，植物趣味や親睦目的の活動はせず，調査活動の一環として，情報交換のためのニュースレターの発行と，見分け方が困難な分類群の学習会・研究会が不定期に行なわれた。

当初、5年ほどで植物誌を作る予定であったが、実際には9年が費やされ、1988年に県内産植物すべての分布図が作成され、「神奈川県植物誌1988」が完成した。

もう一つ、「神奈川県植物誌1988」の特色は、個々の植物に簡潔な記載をつけ、検索表と見分けるための部分の図をつけたことであった。このことにより,「神奈川県植物誌1988」は地域の図鑑すなわちマイ図鑑として機能した。植物誌調査に参加したことにより，植物を見る目が鍛えられたことと，マイ図鑑を手に入れたことにより，植物誌刊行後の県内のアマチュアの種の識別能力は飛躍的に高まった。そのため，植物誌刊行後も新産地や新しい帰化植物の発見が相次いだ。

都市化に伴う緑地そのものの減少,人為的な干渉がなくなったことによる遷移の進行,温暖化の影響，外来植物の侵入など，地域の植物相の変化は著しい。10年もたつと状況はずいぶんと変わってくる。植物誌の完成は調査の終わりではなく、その地域の植物のモニタリングの始まりである。「神奈川県植物誌1988」ができた後も植物誌調査会は解散せず、10年後の改定のための活動をはじめた。そして、「神奈川県植物誌2001」へとつながる。その間に1995年に神奈川県レッドデータ生物報告書（RDB)、丹沢大山総合調査、環境省のレッドリストの調査など県内の重要な植物調査が行われたが、これらに植物誌調査会会員が参加してきた。

また，調査会会員の中には野外調査だけでなく、標本が集積される博物館で標本整理やコンピュータへのデータ登録に参加した人もあった。標本整理を体験することにより、標本の大切さがわかり、標本庫の利用の仕方も身についた。

「神奈川県植物誌 1988」以後、長野県植物誌、埼玉県植物誌、千葉県植物誌など、多くのアマチュアが参加し、分布図を伴った植物誌が作られた。まだ植物誌は完成していないが、愛知県、兵庫県、富山県、高知県などでも、植物誌を目指して活発な活動が行われている。

日本の植物相の調査はほぼ終わったと言われるが，地方レベルでの植物の分布情報はまだまだ不完全である。地方植物誌の編纂や改訂，レッドデータブックの作成，外来植物の監視など，地方のアマチュアの活躍する場はきわめて多い。

神奈川県には老舗の植物同好会として知られる横浜植物会のほか, 横須賀植物会, 茅ヶ崎植物会, さがみ野植物友の会, みちくさ会など既存の植物同好会が多数活動している。それらの同好会会員の有志は, 各所属の同好会の活動をしながら植物誌調査に加わり, 調査会の主要メンバーとなった。植物誌編纂で得た知識や経験は，それぞれの同好会の一般会員にも還元されることになる。

国内各地に出かけて珍しい植物を観察したり、ときには海外にまで出かけるといったツアー中心の活動が主になっている同好会もある。このような活動を否定はしないが、ツアー中心の活動では、植物の識別能力のある次代の指導者は育ちにくいし、会の実績として残されるものがない。やはり、自分の住んでいる地域の植物相を地道に調査し続けるといった方向性が必要ではないかと思われる。

地域植物誌の編纂が目的の会であれば、会の構成員はアマチュアだけでなく、大学や博物館の研究者が会の構成員に加わる。神奈川県植物誌や千葉県植物誌では主に博物館の研究者が加わった。長野県植物誌では信州大学の研究者が加わっている。プロとアマの研究者が同じ目的の仕事をする良い機会といえる。

ところで，植物誌編纂に向けて活発な活動が行われていても、地方の植物同好会や研究会の平均年齢はけっして下がらない。なぜなら、若い人達が植物同好会や研究会に入らないからである。ある程度の能力さえあれば，誰もが大学に進学できる今日，植物分類であれ，植物生態であれ，学問の道に進むなら，植物同好会ではなく，目的とする大学へ進学すれば良い。植物同好会や研究会の構成員はどうしても，社会人が対象になる。社会人で時間的に余裕があるのはある程度年齢の高い方になってしまう。そのような構造があるので，アマチュアの植物同好会に若い人が入会することは稀である。

「神奈川県植物誌1988」では約20名の執筆者の中で私は33才で最年少であった。「神奈川県植物誌2001」では執筆者は44名に増え，うち13名は私より若い方が執筆陣に加わっている。最年少はやはり30才超と思われるが順調？に世代交代が進んだと思う。最低年齢30才前後、平均年齢50-60才で維持できれば良いのではないだろうか。

連絡員からときどき便り

植物と人便り・2・

つぼみを食べる、髄を飾る－ *Trevesia palmata* のこと

鹿児島大学総合研究博物館　落合雪野

東南アジア大陸部で有用植物を調査していると、人々が印象的な使い方をしている植物に出会うことがある。今回はそのひとつ、*Trevesia palmata*(ウコギ科) について紹介したい。

市場で売られるつぼみ

*Trevesia palmata*の利用に最初に気づいたのは、2001 年 3 月、ミャンマー第 2 の都市マンダレーの市場でのことだった。ごつごつして毛深いそのつぼみが、食用に販売されていたのだ。続いて2002年12月と2003年12月にシャン州に出かけると、チャウメー、ラショウ、ムセー、タウンジーなど多くの街の市場で、つぼみが売買されているのがみつかった。東南アジア大陸部には、さまざまな植物の花序を食べる習慣がある。*Sesbania grandiflora* や *Azadirachta indica* が代表的だが、*Trevesia palmata*もその一員ということになるのだろう。市場の商人によれば、森林に自生する個体からつぼみを採集してきているそうだ。また、ムセー県モータウン村には、庭畑の一角にわざわざ木を植えて、つぼみを収穫している世帯もあった。シャン州の人々にとって *Trevesia palmata* は、それだけひんぱんに食べたくなる食材ということであろうか。このようなとき、見ているだけではつまらない。サトイモといっしょに煮るとうまいというので、その料理をさっそく試してみた。だが、フキノトウを何十倍も苦くしたような味に、一切れ食べただけであっさり退散せざるをえなかった。

髄を押し出す瞬間

いっぽう、ラオス、ウドムサイ県ナモー郡のカム(Khamu)人の村では、*Trevesia palmata*をまったく別の目的で使っていた。2004年8月、村人とともに山に入って植物の名前や利用方法を聞いていたとき、一人の男性がその木を指差して、これは耳飾りを作る植物だといった。この木のどこをどうしたら耳飾りになるのかと不思議そうにしているわたしたちを前に、男性は実演を始めた。30センチほどの長さに切った*Trevesia palmata*の幹に、それよりやや長い別な木の枝をぎゅっと押し込むと、スポンという音とともに、中から白い髄が飛び出してきた。その髄は直径2センチほどの円柱形で、軽く、発泡スチロールのような質感である。この部分が、女性が耳たぶにあけた穴に飾るピアスにするのにちょうどよい材料だったというわけだ。髄を赤や黄に着色して、おしゃれを楽しむ人もいるらしい。

有用植物の調査というと、特別な効果のある薬用植物や、珍しい観葉植物など、実用性、経済性に富んだものを期待される方も多いだろう。しかし、*Trevesia palmata* のように、他からみればどうでもいいような植物にこそ、地元に暮らす人の生活がうつし出されている気がしてならない。植物をめぐるローカルな知恵をもとめて、市場や村に通う日々は続く。

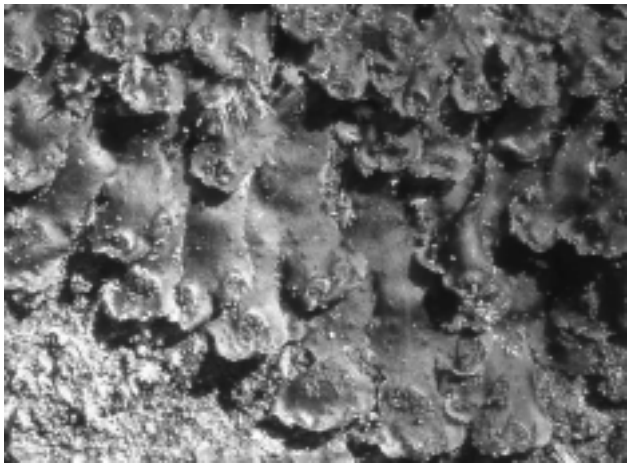
コケ便り・2・

日本に固有なタイ類の属

千葉県立中央博物館　古木達郎

つい最近まで、日本固有と考えられていたタイ類が５属あった。ヤクシマアミバゴケ属 *Hattoria*，ハットリヤスデゴケ属 *Neohattoria*，エゾヤハズゴケ属 *Hattorianthus*，エゾヒメソロイゴケ属 *Cryptocoleopsis*、シャクシゴケ属 *Cavicularia* である。これらは、いずれも１属１種の単型属として記載された。どの属も分類学的な位置付けが興味深い、稀産種である。ヤクシマアミバゴケは屋久島と大隈半島、三重県に生育していたが、大隈半島では絶滅したため、国際蘚苔類学会の選定において世界的な絶滅危惧種に挙げられている。ハットリヤスデゴケは本州中部以北の亜高山帯の樹幹に生育しているが、生育数は非常に少ない。エゾヤハズゴケは九州以北の渓谷に生育しているがやはり稀である。エゾヒメソロイゴケは、中部地方以北の亜高山帯以上に数箇所でしか確認されていない。シャクシゴケは渓谷の土手や湿った崖に生え、北海道から九州まで広く分布している。

ところが、最近、シャクシゴケ属を除き、これらが相次いで中国から報告された。しかもハットリヤスデゴケ属以外は同一種である。



日本固有属のタイ類シャクシゴケ
（*Cavicularia densa* Steph.）

タイ類で唯一の日本固有属の種となったシャクシゴケは、ウスバゼニゴケ科 Blasiaceae に含まれる。上記５属の中では最も分布域が広く、先駆者的で、胞子ばかりか無性芽も豊富につける本種が日本に固有というのは意外な気がする。この科は、他に北半球に広く分布するウスバゼニゴケ *Blasia pusilla* Lを含み、藍藻類が共生する特異なタイ類として有名である。また、形態的には、葉状体の縁が切れ込むことから、外部形態から葉状体が先か茎葉体が先かが議論されていた時代には、常に題材にされてきた。加えて、シャクシゴケ属の三日月型の無性芽器や大きな腹鱗片（私はこれは腹鱗片ではなく無性芽だと主張している）などはゼニゴケ属に類似することから特異な存在として知られてきた。最近、DNA解析の結果によって、ウスバゼニゴケ鋼 Blasiopsida が設立され、改めて特異な存在であることが示された。今後、どのようなことで話題になるのか楽しみである。

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒980-8578　宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院生命科学研究科生態システム生命科学専攻
日本植物分類学会　横山潤（会計幹事）
Phone:/Fax: 022-217-6689
E-mail: jyokoyam@mail.tains.tohoku.ac.jp
会費： 一般会員5,000円、学生会員3,000円
郵便振替　00120-9-41247

平成16（2004）年11月20日印刷
平成16（2004）年11月27日発行

編集兼　宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉
発行人　東北大学大学院生命科学研究科
横山潤

発行所　茨城県つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館筑波実験植物園内
日本植物分類学会